

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します



赤駒の越ゆる馬柵

聖武天皇が志貴皇子の娘海上女王に贈った歌です。「赤駒の越ゆる馬



赤駒の越ゆる馬柵の結びてし妹が情は疑ひも無し

訳

赤駒がとび越えてしまう柵をしっかりと結びように、結びあつたあなたの心は疑いのないことよ。

聖武天皇 巻四（五三〇番歌）

柵をしっかりと結ぶように、しっかりと結んだあなたの心は疑いないよ、という恋の歌です。

ただ、「赤駒の越ゆる馬柵」という表現は不思議ですね。越えてしまう高さの柵ならば、しっかりと結んだところでどのみち飛び越えてしまいます。

このわかりにくさをフォローするかのように、歌の左注には「擬古の作」（古体をまねた作）で、「時に当れる」（時にふさわしい）ので賜った、との説明があります。「大海の底を深めて結びてし妹が心は疑ひもなし」（三〇二八番歌）という類歌があり、この類の古歌を下敷きにした可能性があります。また「時に当れる」とは、次のような機会が想定できます。

聖武天皇は神亀元（七二四）年二月に即位し、五月五日に「獵騎」つまり馬に乗って弓を引く儀式を観ていきます（『続日本紀』）。即位直後の端

午の節で、例年よりも盛大に行われたようです。颯爽と駆ける馬の姿に、柵まで越えそうだと発想したのかもかもしれません。天武天皇が藤原夫人に贈った、からかい混じりの雪の歌（二〇三番歌）もありました。今回の歌も、「馬柵を越える赤駒のように自由なあなた」と、海上女王を赤駒に喩えた戯れの歌とする解釈があります。続く海上女王の返歌にも「梓弓」が詠み込まれています。恋歌の形式をとりつつも、端午の獵騎を素材として戯れに詠み合ったものかもしれません。

聖武天皇の時代は大伴旅人・家持の活躍時期でもあり、万葉集の中心をなす時代ともいえます。聖武天皇の歌は、天皇としては最多の十一首収められており、その中で今回の歌はもっとも早い時期のものと考えられます。

（本文 万葉文化館 阪口由佳）

和歌や作者などに関連するものを紹介するよ！



万葉ちゃん

法華寺門跡

（奈良市）

聖武天皇の皇后である光明皇后の発願により総国分尼寺として、天平17（745）年に光明皇后の父藤原不比等の邸宅跡に建立されました。本堂に安置されている木造十一面観音立像（国宝）は、光明皇后がモデルといわれています。本坊の庭園は名園として有名で、犬の形をした「お守り犬」は厄除けや長寿、安産のお守りとして知られています。



写真提供：法華寺



〒奈良市法華寺町882

☎0742-33-2261

🌐hokkejimonzeki.or.jp